

ピアンの厨房見聞録

今回は夜のコース料理からお肉料理に付け合せたうもろこしにスポットを当ててみました。

家庭でもおなじみのとうもろこしですが、昨今さまざまな品種が店頭に並ぶようになりましたね。今回はビアンで召し上がっていただいている代表的な調理法をご紹介いたします。

【生で】ここ数年でポピュラーになってきた「生でかじる」という食べ方。品種改良されたおかげで、生でなければ感じられない甘み成分や食感などを総合的に味わって下さい。

【ゆでる】一般的な食べ方ですね、塩を入れた湯で加熱されることで生っぽさが消え、水分が足されることでみずみずしくはじける食感になります

【焼く】郷愁をそそるとうもろこし料理といえば縁日で食べた焼とうもろこしをおいて他にないでしょう。醤油をつけて香ばしく焼き上げる味は、味わいが凝縮され、塩分との出会いによる味わいの変化もポイントでしょう。

【スープ】とうもろこし料理の隠された主役ポタージュ。生の身をそぎ、フードプロセッサーにかけてなめらかにし、同量のミルクを足して加熱します。実はこの方法で食べるのが品種の違いが大きく出て、ねっとりするもの、サラサラのものなど、変化に富んだ味を楽しむことが出来るでしょう。

今回は4つの料理法を紹介しましたが、他にも色々な料理との組み合わせが楽しめる食材だと思います。ビアンでは皆さんにご満足いただけるよう、さまざまな食材をバリエーション豊かな調理法でおもてなししております。是非ともご予約時にご希望をお伝え下さい。

星をお伝え下さい。
ビア、料理長 内野弘誠

お誕生日・結婚記念日・合コン・オフ会・同窓会…
少人数から30名様まで各種パーティー承ります。

ご予約・お問合せ
パン＆レストランビアン 06-6568-3443

営業時間
ランチタイム 11:00～14:00(L.O.)



THE その 4
JOSHUA U 2
TREE



この逸曲 アナログレコードの逆龍

旧約聖書のヨシュア記から名づけられたこのアルバムは、U2デビューワーク後6枚目の名作です。僕自身70年代中盤以降の音楽シーンについては正直無関心を装っていました。夕映えのロックミュージックが開花し、しかも自由と平和を旗印とした牧歌

P 166 保科好宏)。

次回のDJ=hidarimaki
「One More Cup of Coffee!」

日時：9月28日（金）PM19:00～
料金：¥3,500
定員：30名様
完全予約制

毎回ご好評頂いております。
満席になり次第締切りとさせて
頂きります。
ご予約はお早めに

受付・お問い合わせ

06-6563-1156 担当・井上

ギター／ワーケはU2の至宝。今
セージはU2の柱です。今
は「今月の一枚」として「ヨ
ツリー」を捧げます。全曲が
で疾走するようなスピード感

ギター／ワークはU2の至宝。ツセージはU2の柱です。今は「今月の一枚」として「ヨツリー」を捧げます。全曲がで疾走するようなスピード感、晴らしい！
hidarimaki

夏の風物詩
(この記事はブログでも紹介しています、ナイスのブログもよろしく)

マイ3の往々日記

夏の風物詩

N=NICE A=ART《芸術》& AMUSE《楽しませる》 V=VENTURE《冒險する》&
I=ISSUE《発行物》をNICE VIEW(ナイスの視線)でお届けします。

ボクは、城山三郎や吉村昭の「食」のエッセーのファンで、最近は週刊誌のコラムに登場する、糖尿病などの食卓日記なども見落とさないようになった。

元来食道楽だし、メタボを気にしているということもあるのだが、著名な作家などが、ほん些細な食材、献立に一喜一憂し、打ち明け話のように語りかけるエッセーに出会うと、思わず小躍りするような共感を覚える。そんな日は、一日中浮かれた気分になることも少なくない。歳のせいと一言で済ませたくない、ボクなりの「境地」だ。

ボクは、「福祉」の先にある「境地」とは何だろうと考えてきた。西成のまちづくりが、かねてから提唱してきた「やつてあげる、やつてもらうではなく、やつていこう

「という福祉」の「やつていい」うの境地のことだ。そして、そのボクの思考は、どうも「眠る」「食べる」「睡る」の三つに収斂されてきたように思う。それぞれに「こ」ちよくという形容詞を付けると、「この境地が伝わるだろうか？」

「こんな」とが、社会問題のメッセージ。西成からのメッセージとは、あまりに「幼児化」だと一蹴されそうだが、ボクはいたつて真面目に考えてる。多様な住まいづくりやリフォームも、公園づくりも、つまりや音楽などのイベントも、錢湯を守ることも、レストランを誘致したのも、そんな境地に思いを馳せる一喜一憂の一幕ではなかつたのか。言うまでもないが、喜びもあれば、憂う日々もあるといふまさに一喜一憂の日々、人生である。

そして、この秋、ボクは、地域の高齢者のための、くらし組合の「食券食堂」に一喜一憂するのだこう。西成の秋、食欲の秋、まもなく開店だ。



